

—季節による色合いの変化—

山本浩恵 ○高岡昭

目的 ヨモギの若葉は「草餅」に、また成長した葉は灸の「もぐさ」に利用されている。本報ではヨモギを毎月採取して絹・羊毛・木綿を染色し、採取時期によってどの程度色合いが変化するかを調べた。

方法 ヨモギから水溶性の色素を煮沸抽出し抽出液の紫外・可視吸収スペクトルを測定したのち、媒染剤をかえて染色し、その色彩をCIE(1976)L*a*b*表色系の数値から色度図と色調図を作成して色彩を比較した。

結果 ヨモギは、春に芽が出て、秋に花が咲き、冬には枯れる。抽出液の λ_{max} は、4月～11月までは、340nm存在するが、12月～3月までは、消滅する。吸光度は6月が最も高く、花が咲くと急激に低下し、枯れると消滅する。

綿には、ほとんど着色せず、絹、羊毛には媒染剤によって染色性は向上し、絹の場合はアルミニウム媒染で、羊毛の場合はクロム媒染で $+b^*$ 値(黄方向)と $-a^*$ 値(緑方向)が増加し黄緑色に染まる。5月が最も $-a^*$ 値(緑色)が高く、6月以降は漸次減少し、 $+b^*$ 値(黄色)が向上する。12月より3月までは汚染程度である。採取直後に染色した場合と、乾燥後に染色した場合の色彩を比較すると、後者の方が黄味が強く、緑味が少ない。